

分取クロマトシステムを用いたスタチン精製の検討

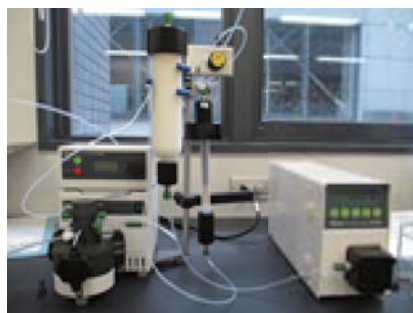
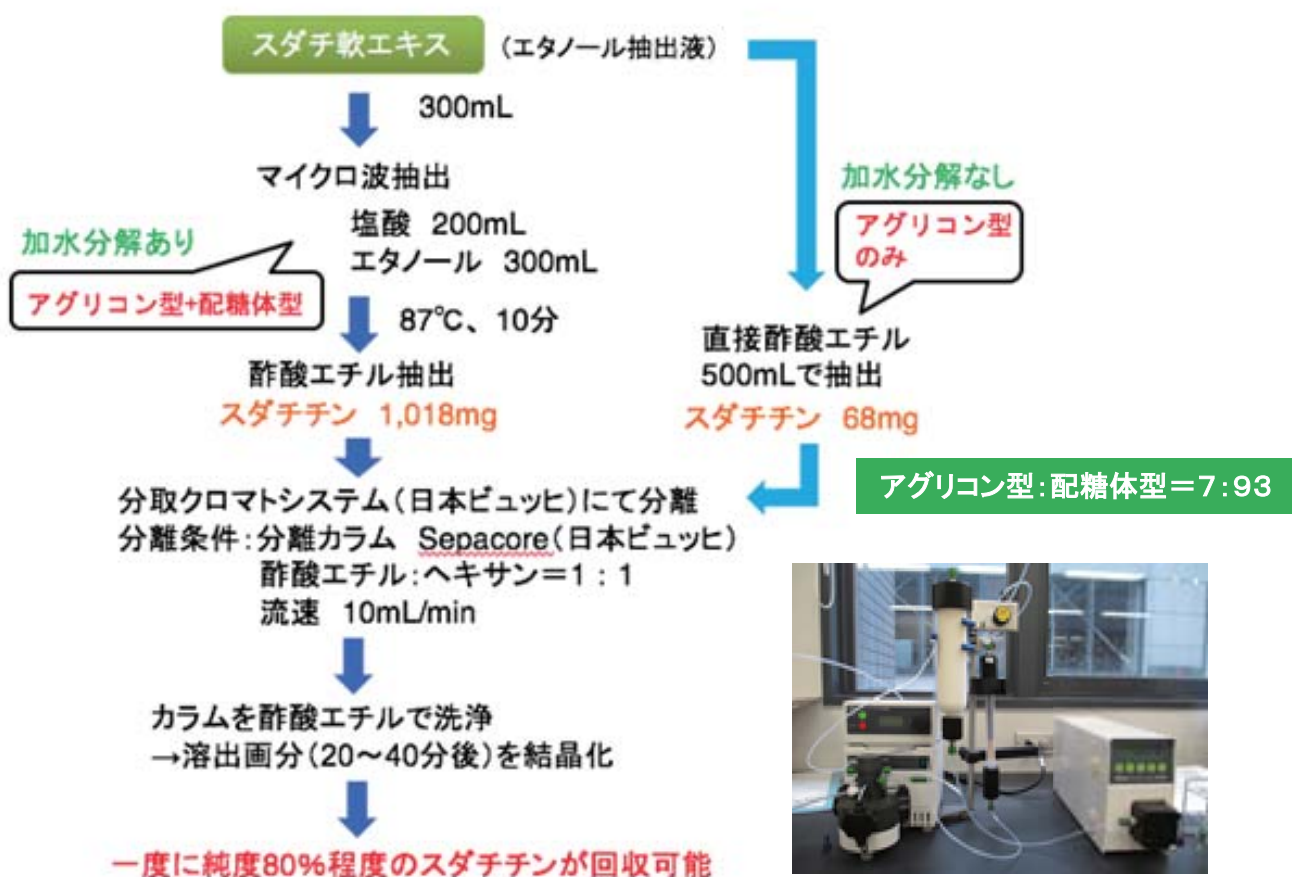
池田薬草株式会社 敷島 康普, 酒巻 康明, 安部 寛
 工業技術センター 食品・応用生物担当 新居 佳孝, 秋月 学,
 岡久 修己

1. 研究目的

スタチ果皮には特有のポリメトキシフラボン(スタチチン)が含まれており, 抗肥満・抗糖尿病作用を有することが報告されている. これまでに, スタチ果皮からスタチチンを抽出する最適な条件を見出し, スタチチン10%品を大量に製造することができた. 本研究では, さらに高純度のスタチチン(スタチチン95%以上)の製造を目標とし, 精製条件の検討を行った.

2. 研究内容

スタチ果皮エキス末を原料にして合成吸着剤(ダイヤイオンHP-20)を用いて抽出した「スタチ軟エキス」(スタチチン1%含有)(池田薬草(株)製)を試料として用いた. この試料を同量ずつ分け, 塩酸による加水分解の有無によるスタチチン抽出量の差異を検討した.



3. 研究成果

分取クロマトシステムを用いることにより, 簡便な操作で, かつ短時間で高純度のスタチチンを分取することができた. これにより純度80%以上のスタチチン標準品を安定して生産できるようになり, さらに95%以上の製品を生産できる態勢が整った.